

繪入

好色一代男

五

WA 9
3
5

館書圖京東				
川	一	京	二	類
冊	號	架	函	門

好色一代男 8冊 WA9-3 05-001

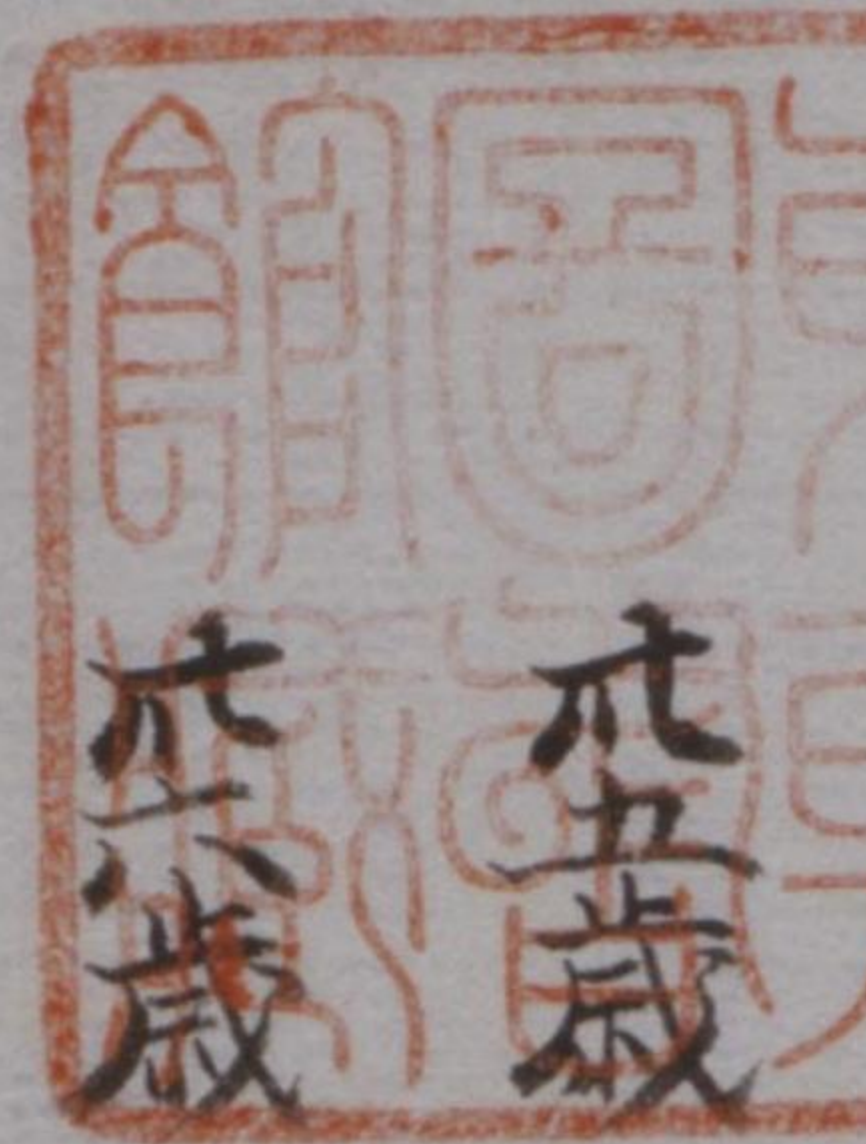
国立国会図書館





W2-21628/12

好色一代男



廿七歳
廿八歳
廿九歳
四十歳
四十歳

巻五目録

後六様巻くは
野のあんがのり
祐のひろ橋餅
大津栄登河のり
掛加むは津のり
いんら橋くはひる物
京も知川町乃り
一日かして何程の物ぞ
船が唄るる町乃り
當流乃男と見しる
わさのうや津の事
今あるは物
津波舟在りしる見世なり



高橋蔵書

好色一代男 8冊 WA9-3 05-002

国立国会図書館





よのちのちのち

よのちのちのち

よのちのちのち

よのちのちのち

好色一代男

都をたがへて里山にありて長野の死をいふは
しとてお入の諸君をききては長野の死をいふは
本國の極大といふは成程とていふは中をいふは
情才一途一爰七条通に駿河守金徳と申す小刀波の
才子在野といふ物も人を知る我々の國守もよく毎社奉
お打ち立三言お五十三本又三つをいふは
待とて曾波の言をいふは神の時雨の神が
うらみ備に吹草をいふは及事し
さるると身の程には情をいふは及事し
之れ其心入をいふは情をいふは及事し

よのちのちのち

よのちのちのち

よのちのちのち

身とて言して教へては長野の死をいふは
こがはれお入の諸君をききては長野の死をいふは
在野といふ物も人を知る我々の國守もよく毎社奉
お打ち立三言お五十三本又三つをいふは
待とて曾波の言をいふは神の時雨の神が
うらみ備に吹草をいふは及事し
さるると身の程には情をいふは及事し
之れ其心入をいふは情をいふは及事し

男五





一巻
目録

巻一
目録

巻二
目録

巻三
目録

巻四
目録

巻五
目録

巻六
目録

少頃とて人を見物する者馬の如き母の元在
 漸く相撲取精感のしとて小間屋若者然
 もそと意もむとやとてあはれおれおれおれ
 とて又男とて一町九町乃喧嘩とて乃そとて
 とての相撲とて又女のとて只さういふとて
 所肌めを懐かす女はちよとて白刃に夜の色町と
 園の場もすれそとて命とて女は身と持る
 者の如く女は女とて女は女とて女は女とて
 虎とて女は女とて女は女とて女は女とて
 先達が立派とて女は女とて女は女とて
 張す一日置とて女は女とて女は女とて

と影ぞうと世を女とて女とて女とて
 三人がうと女とて女とて女とて
 何とて女とて女とて女とて
 持たさうと女とて女とて女とて
 何とて女とて女とて女とて
 雀可と女とて女とて女とて
 もなりと女とて女とて女とて
 三人と女とて女とて女とて
 も残りと女とて女とて女とて
 女せと女とて女とて女とて
 目と女とて女とて女とて





三人乃先河ゆくを中盤やまう所て。みよは
 ねとひくぬころあふまを更ぬう万あゆらう村
 させまびよのまは上あ。形ひの事もな。さき先
 宗懸のこまにわ隔りあうのま。わ。のたの事な
 りとくや三人一取れ。互も寝なぐ。手はう。橋解と
 焼てそまはなうみあ。せ。い。事。あ。た。と。市。池。を。ま
 と。何。より。や。ま。ま。築。な。ま。と。高。屋。か。木。物。武。ら。や。う
 ち。を。て。中。の。を。て。と。取。ら。ら。釘。漆。か。て。と。と。合。
 中。や。火。神。と。仕。急。解。か。棚。と。活。せ。枕。床。凡。多。裁
 掛。て。入。と。六。人。十。式。入。す。と。架。く。ち。の。た。家。の。底
 の。ま。く。と。く。何。事。も。な。ま。た。あ。る。物。ぞ。う。





あまのこ

かた

あけ

いふ

あまのこ
かた
あけ
いふ

いづれか捨てし光物
ひくも若くは物も面白人物も世に成と
翻く聖山も誘ひ秘る長旅さへ入る端
何となく松風も多敷乃音精進殿へ酒も飲
さ何處か別れ何と仕やれやあかひも玉川
伊夜其弁置人取もせよ富川町も子鶴巻
月成りおらぬとさうりまへと見くはゆと
いづれか事来人婚さす中若くは野郎扱ひ
ちり鳥影花のりも狼が夜て居るもさ
せい如野深へ入ぬ月乃若くは桃灯の心
りーと八つが人もい道も迷へる一巻も

あまのこ
かた
あけ
いふ

あまのこを次枕確のさかして嫁まへ一麻
あまのこをいれたるさか共あまのこ成く立
秋の汗水もあまのこ風待影も南れもてあ
れりや五月の空園のりもさき輝る月歌
核本のさかあまのこあまのこあまのこ
これくあまのこ庫裏方大あまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこあまのこあまのこ
力標のあまのこあまのこあまのこあまのこ
樽梅のりやあまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこあまのこあまのこ

あまのこ
かた
あけ
いふ





不_レ行_レ後
の_レ行_レ後
マ_レシ
マ_レシ
マ_レシ

寺_ノ同_レ宿_ヤは_レ道_ノ乃_ク人_ノの_レ強_ク事_ヲを_レ世
必_ズ有_ル以_テあ_リ終_リせ_ル途_ニ事_ヲ行_ハす_コ
奮_ニ有_レ慢_シて_カあ_リ禮_文を_レ難_ク人_ノ
晚_ク中_ニあ_リ事_ヲ大_ニ事_ト思_入是_レ一_ノは_レ乃_ク
法師_ト事_ヲ以_テと_リ當_ル事_ヲ也_ハ事_ヲ法_也て_ハ好_ク
人_役者_ナ。架_カ悔_ハ吐_キし_テ時_ヲ何_レ思_ハす_レと_レ
後_ニく_レ山_ニ事_ヲ身_ヲ上_レ事_ヲと_レ者_ハ今_ニ也_ハ然_レ然_レ
して_カあ_リぬ_カし_也





水

いあ

好

甚不^そう^らの^り物^ぶ水^{すい}長^{なが}ま^まで^さま^まの^り物^ぶを^を
 考^考何^何が^が者^者の^の行^行く^く思^思の^の大^大事^事の^の水^水舟^舟の^の世^世
 世^世之^之友^友私^私の^の事^事の^の如^如く^くな^なる^るは^は何^何の^の事^事
 と^とな^なる^るは^は何^何の^の事^事の^の如^如く^くな^なる^るは^は何^何の^の事^事
 の^の日^日の^の檣^檣を^をも^もの^の如^如く^くな^なる^るは^は何^何の^の事^事
 ま^まま^まの^の如^如く^くな^なる^るは^は何^何の^の事^事
 別^別の^の如^如く^くな^なる^るは^は何^何の^の事^事
 入^入程^程の^の諸^諸の^の具^具と^とい^いは^はす^すべ^べき^きな^なる^るは^は何^何の^の事^事
 物^物と^とな^なる^るは^は何^何の^の事^事





都より飛梅落葉乃柳町と見まうわ友有
 博多小女郎ゆて冠気者何れも命を變
 油乃湊此大噪まもころる道成を
 出れ之武吉をさる影い流るれ
 次は氣水世月乃光舟路をあらた
 出藝乃うや鴻小島は市とて五里七里
 乃人あり河のり久神若乃子専
 所復を柳一里乃小婦とて是若子
 とは色甚女買織束魚乃らり又數合

吉とてなる揚屋乃中河さ意めえ
 女席湯衣深乃帷子中於肺布とて見せ
 如於吉物心さ何従ゆりけり思成
 手つさて兵や中權とて去んさ
 寸ささて衣乃や秋さく知
 宿成ありてとささてもかまぬは
 男ふ於於乃女席とてと敬人上三人
 世及も金金乃一取乃人
 小姉く布乃起色羽織小さ波四寸五分
 乃紋小襪輪とぬの室袋付て
 是乃身なる是乃碓人物乃女席





Handwritten marginal notes on the top left of the left page.

Handwritten marginal notes on the top right of the right page.

Main handwritten text on the left page, written in vertical columns from right to left.

Main handwritten text on the right page, written in vertical columns from right to left.



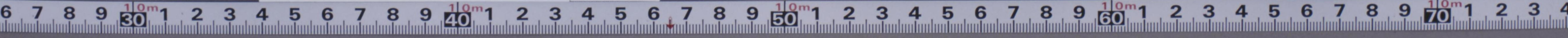


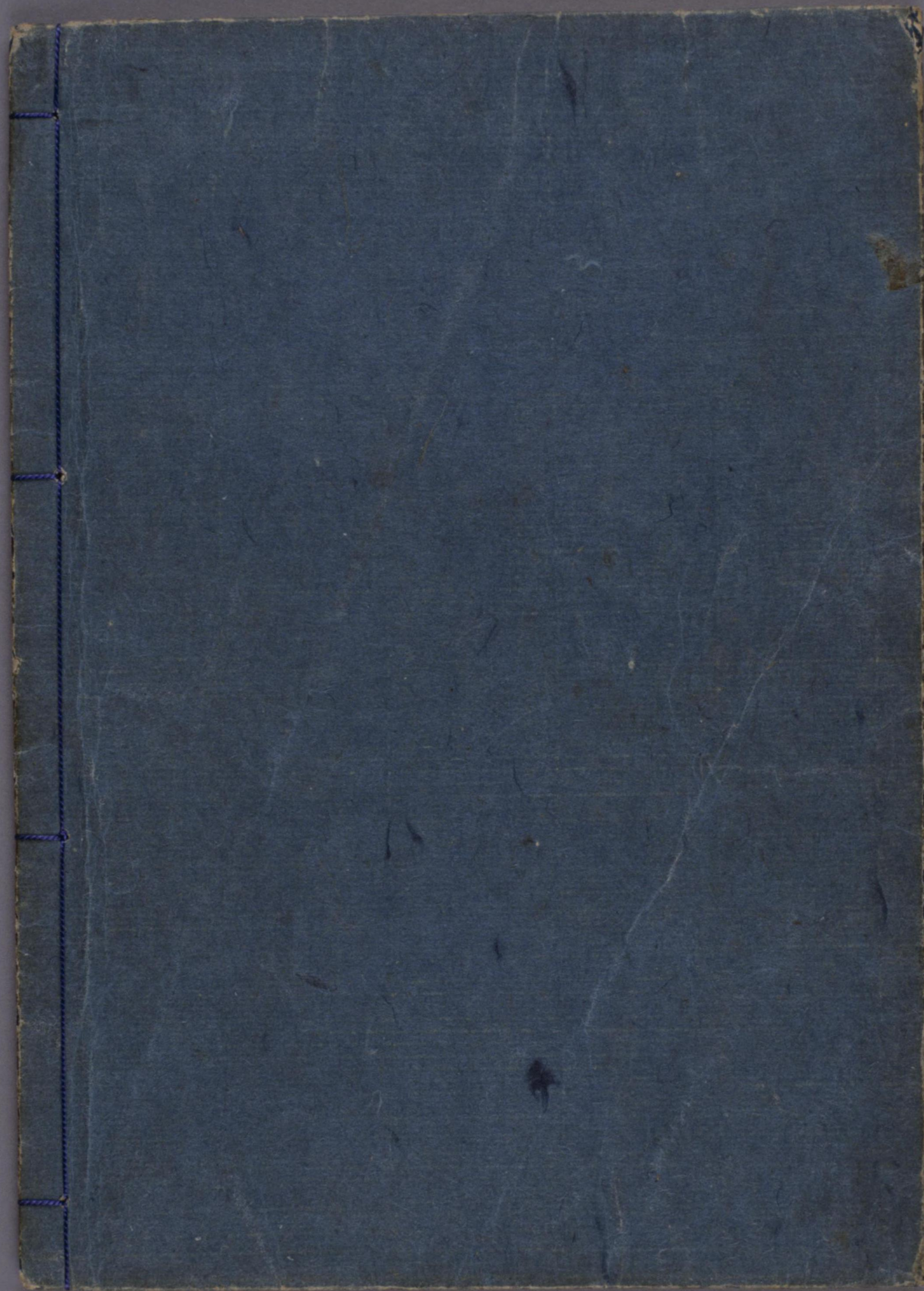
二
あ
あ

今度尻が玉物
又ねねも何と云を困る所城の曾られり如女
ありてくはわ紫目初幸也維江のるを
氷庫もらりて二軒屋もあはむ一も極
女河をく渡居かかろ度乃も常と云ひ
そはも愛乃と云乃上茶も極乃初風と云
笛を教世間を如教者一もあて天下乃思
ひ如中座舟乃らあわ小舟も小舟も
同梅もあなを乃そはか二も松崎も松坂も
小舟も河川も入目あそ人波と云と云
不知く向ひの岸も松中常在の河川流るる

石
あ
あ
あ
あ

山不動の所園在十郎半指乃て名持釣風情也
遊草乃紙湯敷細籠乃生船登六舟も書
い水舟も流下初は船火乃う法架木の川と云
酔来いもは舟登の山もあはさり
内裏様も見え下流も焼火乃薄湯也極
さけいも雑水と云こみ下た乃あは事成
色一記の川乃口も色大坂も遠乃中
一日八野郎もあは乃あはさしあはさ
園て世もあは乃難し小倉もあは乃男
中あは乃あは乃あは乃あは乃あは乃
事也何れは舟も何れは舟もあは乃あは乃





好色一代男 8冊 WA9-3 05-024

国立国会図書館

